

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価（関係者評価用）

1. 学校の教育目標

「ゆたかな心」「じょうぶな体」「かしこい頭」「たくましい力」

2. 今年度の重点目標

たくましい力をもった子の育成 ～授業を核にした教育活動の推進～

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

「A：よく当てはまる B：おおよそ当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない」

学ぶ力の育成

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「分かる」「できる」を目指す授業づくりを通して、教師の授業スキルの向上及び児童理解を進められている。	B	○子どもが「分かる」「できる」と実感することができるよう、授業づくりを進めてきた。担任は授業公開を行い、学習展開等について意見交換をしてきた。また、算数の学習を中心に、複数の教員によるチームティーチングを進めた。学びのサポーターをバランスよく配置することで、一人一人のニーズに答えられるよう努めた。次年度も引き続き、どの子も「分かる」「できた」が増える学習になるよう、研鑽に努めたい。	A	A
読書活動の充実（朝読書と開放図書館の活用）と、家庭学習の定着が図られている。	B	○読書のきっかけづくりとして、朝読書に週に数回取り組んでいる。朝の会の前に読書をすることで、落ち着いて学校生活をスタートすることができた。委員会活動でも読書に対する意識を高めるなどの工夫も行ってきた。もっと読書の楽しさや有用性を味わえる取組を考えていきたい。また、家庭学習として宿題プリントや自学ノートに取り組んでいる。更なる定着を目指して、全校で基準となる取組方を示していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見				
・読書活動充実のため、いつでも本を手にとれる環境づくりをするとよい。				
・夏休みなど長期休みの貸し出しは、家庭での読書のきっかけになっていてよい。				

健やかな体の育成

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
体力向上のための環境整備や取組を行い、子どもの健やかな体づくりに努めている。	A	○昨年度から継続し、「体幹ルーム」「なわとびルーム」などで、体育館や外を使えないときにも、運動できる環境を整え、子どもたちが日常的に運動できるように取り組んできた。「パワーアップタイム」もグラウンド遊びのきっかけとなり、有効だったと考える。次年度は、グラウンドにドッジボールコートを常設するなどして、体育の学習以外で体を動かす楽しさを味わえるようにしたい。	A	A
子どもが自らの健康について関心をもって生活している。	A	○栄養教諭による食指導や養護教諭が発案した指導案による保健指導などに取り組んだ。また、担任や養護教諭を中心に、家庭での望ましい生活習慣づくりの啓蒙、児童への指導を行ってきた。家庭との連携を更に深めるよう、努めたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見				
・先生方が休み時間に子どもたちと一緒に遊ぶ姿が見られ、とてもよいと思う。				

豊かな心の育成

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
子どもが思いやりの気持ちを持ち、いじめをしないように指導している。	A	○子どもの自己肯定感を高めるために、教職員が積極的にプラスの言葉掛けや子どものよいところを価値付けるよう、心がけた。いじめにつながる言動を見逃さず、毅然と指導するようにした。また、栄中校区の小学校では人権教室を行っている。さらに、月に1回、「いじめ防止対策会議」や「校内学びの支援委員会」を開催し、組織的に子どもたちの指導に当たることができるようにした。	A	A
自分から進んで挨拶や返事をしたり、交通安全に留意したり、スマートフォンなどの情報機器を適切に使うなど、基本的な生活習慣が身に付くように指導している。	B	○教職員自らが手本となる挨拶を交わし、子どもたちに挨拶の習慣が身に付くよう取り組んだ。また、一昨年度より始まった栄中学校区の「おはようプロジェクト」は中学校が主体となり、地域ぐるみのあいさつ運動を行った。中学生が自作したポスターや動画などで小学生の意識が高まった。 ○スマホや SNS などの扱い方については、子どもだけでなく、保護者への呼び掛けも必要である。次年度は、情報モラル教育を教育課程に位置付け、学校で体系的に指導する予定である。これまで同様、保護者にも積極的に情報を発信していきたい。	A	A

学校関係者評価委員による意見

- ・校長先生などが毎朝、交通指導をしている。保護者と一緒に登校する子どもが増えた。暑さや雪山、不審者などの危険から子どもを守るため、大人の目がたくさんあるとよい。

信頼される学校の創造

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保護者やスクールゾーン実行委員会などの地域と連携を図り、子どもたちが安心・安全に学校に通うことができるようにしている。	A	○学校ホームページやすぐーるなどで随時、情報発信を行った。スクールゾーン実行委員会からもプリントを配付し、子どもたちが安心・安全に学校に通うことができるようにした。	A	A
学校の教育活動について、保護者や地域に対して分かりやすく情報を発信している。	A	○上記の通り、学校ホームページで学習や学校行事の様子を発信することができた。本校のことをより知ってもらうために、今後も随時学校ホームページを更新していく。	A	A

学校関係者評価委員による意見

- ・すぐーるでの情報発信により、ペーパーレス化が進み、いつでも情報を見られるのでよい。
- ・紙媒体とすぐーるのどちらの方が便利か、保護者にアンケートをとってみるとよいのではないかと。

特色ある教育活動・今日的課題

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「小中一貫した教育」を更に進めるべく、栄中学校区4校が連携して9年間を見通した系統性のある教育の実施できるようにしている。	A	○学校運営協議会の設置により、小中一貫した教育が一層推進されている。協議会参加者からの積極的な発言を受け、学校の取組を確認することができた。	A	A

学校関係者評価委員による意見

- ・中学校区で風通しがよくなり、子どもたちにとっても先生方にとってもよくなったと思う。
- ・小学校間の横のつながりができ、中学校進学後も安心して通うことができると思う。

